西東京市市民協働推進センター

平成２４（２０１２）年度第７回運営委員会会議録（確定稿）

■開催日時：平成２４年１１月２０日（火）　午後７時～９時１５分
■開催会場：イングビル３階　第１会議室
■出席委員：有賀委員、有馬委員、岸委員、熊田委員、小嶋委員、高橋委員、徳永委員、中曽根委員、原委員、吉田委員
＜以上１０名、五十音順＞
■事 務 局：内田センター長、鈴木、望月局長、丸木地域福祉課長、篠原主事

１．西東京市市民協働推進センター業務報告について

事務局より１０月に実施した協働に関する情報収集・先進自治体の見学、ＮＰＯ市民フェスティバル第２回実行委員会とＨＰアクセス数、市民活動団体登録状況、相談状況の報告があった。

委員長：ＮＰＯ市民フェスティバルの会場がきらっとと公民館の２箇所となるので連動性と一体感をどうつくるか、集客に繋げる動線の確保をどうするか、実行委員会で協議してほしい。

事務局：動線はスタンプラリーなどを取り入れ、きらっとと公民館、それにゆめこらぼを回れるよう検討していく。

２．１１月以降の西東京市市民協働推進センターの事業について

事務局より１１月以降の５件の実施事業報告があった。その後、協働に関する情報収集の勉強会に関して、以下の議論がされた。

事務局：「協働に関する情報収集」事業として勉強会を行った。協働の勉強会を進める上での課題や問題を振り返り、その後グループワークをする予定であったが、協働に対する考えやゆめこらぼのあり方の質問がありグループワークまでには至らなかった。次回勉強会は進め方を検討し直して行う予定である。

委員長：協働の勉強会に参加されている方は非常に意識が高い方達なので、勉強した内容は今後センターの活動に活かしてもらいたい。勉強会で出た質問をもう少し詳しく聞きたい。

事務局：ゆめこらぼはどういう立ち位置で、協働に関してはどのような役割を果たしているのか、市民とＮＰＯや行政とＮＰＯを繋げるのにどういう関わりをしているのか、ゆめこらぼのミッションを明確にして欲しい、協働の理念の勉強会もいいが具体的な動きや成功例などの実績が欲しい、などである。

委員長：武蔵野市と比べて出てきた質問か。

事務局：必ずしもそうではない。

委　員：参加者の質問はわかるが、センターはどう答えたのか。

事務局：答えられていないと思う。問題を洗いださなくてはならないが、市とのつながりをつくることや、ゆめこらぼの位置づけが社協の中にあるので、社協が持っている社会的財産を活かすやり方ができないかなど、次回の勉強会には自分達なりの取組みが出せるよう検討している。

委　員：センターが答えられないのは当然という面はある。

事務局：ゆめこらぼとして協働を進めていくために、スタッフの仕事の仕方を変えていく方法も考えている。

２．審　議　事　項

１．２０１２年度第６回西東京市市民協働推進センター運営委員会会議録について

委員長：会議録については今後も発言の要点を記すこの形式で構わないか。

委　員：わかりやすくてよい。

委員長：第６回の西東京市市民協働推進センター運営委員会会議録（未定稿）は確定稿とされた。

３．協　議　事　項

１．西東京市市民協働推進センター　平成２５年度事業計画・予算（案）

事務局：平成２５年度は２４年度から始まる３ヵ年の計画の２年目であり、事業については市と約束している

ものなので基本的に変わらない。しかし、非常に事業が多いため、メリハリをつけたい。まちづくり円卓会議、行政職員と市民活動団体の懇談会、ＮＰＯ・市民活動ネットワークの３本を積極的に取り組んでいく予定である。実績・課題を踏まえて取り組みについての案を出しているので、ご意見を頂きたい。まちづくり円卓会議はＮＰＯ・市民活動ネットワークとも連携して、例えば居場所づくりをテーマとした関係者の集いの開催や、社会福祉協議会の資源を活用して関係者との関係づくり等、具体的な成果が出るよう進めていく。行政職員との懇談会について、協働を進めるという立場で市職員とゆめこらぼ間との関係づくりに取り組む。そこから出たものをまちづくり円卓会議やＮＰＯ・市民活動ネットワークと関連付けたい。ＮＰＯ・市民活動ネットワークは、昨年度からの子どもネットワークの維持・拡大に取り組む。また、まちづくり円卓会議など他の事業できっかけができた場合、新たなネットワークの形成を図っていく。事例集については今年度に作成するので、来年度は作成しない。全体的に個々の事業に関連性をもたせ、また、成果が見える形にしていきたい。

事務局：予算は昨年度とほとんど変わらないが、職員の研修やコーディネート力をつける目的で職員の研修費部分が昨年より多くなっている。事業ごとにどれだけ経費が必要かという主旨で、人件費を除いた事業費を経費積算資料として作成した。

委　員：この経費積算資料は細目がなくわかりにくい。事業計画はわかるが、予算は時間軸的なものがなく具体的な理論づけがない。事業は、年間を通じての横軸縦軸があれば非常に分かりやすく市役所にも説明責任が果たせるのではないか。

事務局：予算に関しては委員が言ったような案で市へ既に提示している。年間のスケジュールは、まず事業の骨格をかためて、それを年間でどのように実施していくかを２、３月の運営委員会で提示し検討してもらっている。今年度についても以前、運営委員会で事業スケジュールを提示しているが、今回は事務的な面で作業が追いついていない。

委　員：事業計画案は今日の運営委員会において了承までいかなくてはならないのか。また、事業計画で新規とあるが、既存のものではないのかという２点を確認したい。

事務局：この事業計画の中身と予算は既に市に資料として提出済みである。事業計画の取り組み方についてはこれからの運営委員会で協議して頂き固めていきたい。今日決定しなくとも良いが、予算を含め１月の運営委員会では固めて欲しい。事業については企画提案に反するような変更はできない。

委員長：事業の変更はできないが具体的な内容に関しては見直しの余地はあるということである。

委　員：新規のものはあるのか。協働の事例集は新規になるのか。

事務局：新規はない。新規と記載している点は修正する。

委員長：協働の事例集は毎年作成するものではないと理解する。今後経費の資料に関しては提出する前に形式を確認する必要がある。基本的に事務局で作成しているものをベースにあまり加工をせず提出してもらうこととする。事業計画については事業と事業の関係性をもたせるのであれば、具体的に示してもらいたい。そうすれば、センター長の意図も分かりやすくなる。大きな柱としてはこれで進めて行く。細かい内容は追ってご意見を頂きながら進めて行く。

２．協働事例集の作成について

委　員：西東京市における協働事例を誰が選定しているのか。

事務局：ゆめこらぼと行政で協議して選定している。

委　員：西東京市の情報をまとめた事例集を作成するにあたり８例しかないのではないかと誤解されないよう配慮して欲しい。選定の基準をはっきりさせる必要があるのではないか。いろいろな形態で協働をしている事例集と考えてよいか。

委員長：なぜこの団体が選ばれたのか疑問がでる可能性は否めない。表現の方法を検討してほしい。読み物としての事例集が望ましいのではないか。今回の８例は西東京市の協働の中の一部ではあるが、代表しているものでもあるので、みんなで読んで西東京の協働の一端であるものとして理解していきましょう、でよいのではないか。編集にはかなり配慮して欲しい。この８団体で作成していくこととする。

委　員：事例集を作るにあたって、西東京市から出せる事例から選んだものを載せた、と説明する必要がある。実際には多くの協働を行っていても、説明がなければ、西東京市では協働をしていないのではないかという印象を持たれるのではないか。西東京市では多くの協働を行っているということと、情報公開の課題ということが言いたい。

事務局：どれだけ多くの事例を行ったかということではなく、本当に協働として進んでいるものは何か、という考えで協働事例集を作成し、それをベースとして協働事例集の充実に取り組んでいく、という考え

である。
委　員：協働の形態を表現するための事例集ということか。
事務局：そのように考えてもらって良い。
委　員：作成した事例集を市民が見たとき、今の議論のようなことを思うのではないか。その部分を補うような記述や表現方法が必要である。
委員長：編集方法が重要である。今回は西東京市の事例を客観的にみるものではなく、協働を進める実際のツールとなる事例集を作成するというのが良い。
委　員：「協働事例集」として出すことに違和感がある。
委員長：名称も検討した方がよい。事例集が西東京市の協働の一部であるとして、協働について考える一端になるよう、編集方法を工夫していくのが良い。

３．協働について

委員長：本日は時間がないため、別途説明して欲しい。

４．そ　の　他

１．次回運営委員会日程について

日時：１２月１８日（火）１９時～２１時
会場：イングビル３階　第１会議室